

増地 昭男先生に贈る

経営学部長 寺 岡 寛

経営学部・経営学研究科教授 増地昭男先生は、昨年3月末をもって定年退職された。

増地先生は昭和5[1930]年に東京市本所区（現、東京都墨田区）にお生まれになった。暁星中学校をご卒業後、東京商科大学附属商学専門部に入学され、同商学部に進まれた。増地先生の世代は、旧制と新制の大学制度の経験世代でもある。東京商科大学から名称変更された一橋大学商学部の一期生として卒業された。さらに、同大学商学研究科に進学された。

増地先生は博士課程修了後、成蹊大学政治経済学部助手として採用され、研究者、教育者としてスタートされた。わが国の経済が高度成長軌道に乗った昭和34[1959]年であった。昭和43[1968]年には同大学経済学部教授に昇格され、多くの有為の人材を輩出され、平成8[1996]年に成蹊大学を退職された。

同年、わたくしどもは増地先生を中京大学にお迎えした。学部では「経営学総論」、大学院では「経営管理研究」などをご担当いただいた。先生はその学識もさることながら、人格者であり、ゼミ生や院生に親しまれた。その熱心な指導ぶりに鼓舞された学生たちも多かった。

増地先生は中京大学に移られてから単著を執筆された。『企業形態研究』（千倉書房）がそれである。増地先生の約半世紀近い学問蓄積が結実したような研究書である。同書をわたくしたちの経営学部研究双書の1冊として刊行できたことについて、増地先生に感謝申し上げたい。

増地先生は下戸である。とはいえ、いつも宴席に参加され、もっぱらウーロン茶でわたくしどもに付き合っていた。決して堅物でなく、その話題は豊富であり、いつもそのはなしにはユーモアがあった。

増地先生は第一線を離れられたが、院生指導で時折、来学していただいている。そのときにいつも感心させられるのは、先生の知的好奇心のすばらしさと企業経営のあり方を真摯に問う姿勢である。

経営学部の教員一同、本号を「増地昭男先生退職記念号」として増地先生に贈り、先生の経営学部へのご貢献を感謝しつつ、ご健康とますますのご活躍を祈念したい。